

# 警視庁が交通違反にタブレット導入決定、皮算用では7000日分効率化

県田勢

シェア 2 ツイート Bookmark 1

2014年10月30日 10時39分  
2014年10月30日 10時47分

タグ ▶ タブレット, 交通違反, 東京都, 警察庁, 警視庁



## 導入は来年末から

報道によると、警視庁が交通違反の取り締まりの効率化を目指して、タブレット型の端末を導入すると発表したとのこと。

端末のシステムは開発中の段階で、導入は来年末になるとしている。各警察署の交通課職員の他、派出所勤務の警官にも配備する予定ともある。

## 青切符の処理時間が半減

対象となるのは、30キロ未満のスピード違反など（青キップ）だ。

現在は手書きにより20分程度かかっているが、ICチップ付きの運転免許証をかざすことにより、名前や免許書番号などの必要事項が自動入力でき、プリントアウトすることで作業時間は10分程度に短縮されると見ている。

無免許運転などにつながる重大な交通違反については、これまで通り手書きによる交付が続けられる見通し。

## ビッグデータ化も

またGPS機能を利用することで詳細な違反の現場を特定できる上に、ネットワークに接続して、情報を集約するのも容易であることから、長い目で見た違反や事故防止の対策が可能としている。

## 効率化はどのくらい？

警視庁の話によると、平成25年度に交付した青切符は約100万枚とのこと。1枚で10分短縮できれば、単純にかけると約1000万分、つまり約7000日の効率化となる。

ただしタブレットを導入したことで、端末のメンテナンスや、集まった情報の分析に新たな費用や人手がかかるだろうことを考えれば、それほど単純に効率化が進むわけではない。

ちなみに警察庁の資料によると、全国の青切符発行枚数は、近年700～800万枚発行されている。東京都（警視庁）と財政事情は異なることもあり、全国一律の導入は難しそうだ。